

## 「スウェーデンの文化に触れて気付いたこと」

愛知県立岡崎商業高等学校国際ビジネス科 3年 金谷咲華

私がこのスウェーデン王国ウッデバラ市への交換留学に応募した理由は、私は今、ホテルに就職し、英語を使って働くという夢のために英語の勉強に力を入れており、第二言語が英語であるスウェーデンへ行き、英語を使ってコミュニケーションをとってみたいと思ったからです。また、日本から遠く離れたスウェーデンへ行くことのできる機会はこれからの人生の中でもなかなかないと思ったので、ぜひこの機会を利用し、スウェーデンの文化を肌で感じてみたいと思ったことも、一つの理由です。



ストックホルム市内にて

スウェーデンでは本当に色々なことを経験しましたが、私が一番好きだと思ったのは、「フィーカ」というスウェーデン独特の文化です。フィーカとは簡単に言えば、みんなでコーヒーを飲んで会話をするという日本で言う「お茶」のようなものです。スウェーデンでは、



フィーカの準備ができたテーブル

会議前や仕事の休憩時間などにフィーカを楽しむのが恒例なようで、私達も多い日は一日に三回以上フィーカをしました。はじめは、この回数の多さや、会議の前にもフィーカをするということにとっても驚きましたが、スウェーデンの人達が、コミュニケーションを大切にしているということが伝わってきて、ぜひ日本でも取り入れたいすてきな文化だと感じました。

また私はスウェーデンの人達の語学への意識の高さにも刺激を受けました。スウェーデンにいる間は、ほとんど全ての人に英語が通じて、何度も「日本だったらこうはいかないだろうな」と思ってしまいました。ただ一つ私が思っていたことと違ったのは、スウェーデンの人達にとっても英語は「学ぶ」存在であるということです。私はこの交換留学へ行く前、スウェーデンの人達が英語を流暢に話せるのは、生まれた時から英語が身近にあり、自然に身につけていくからだと思っていました。しかし実際に現地へ行って色々な人に話を聞いてみると、この語学力の違いは環境ではなく、努力の違いだということに気づきました。スウェーデンでは、小学校に入学する前から英語を学び始めることも一般的で、そのためほとんどの人が流暢な英語を話せるのだそうです。また、英語、スウェーデン語以外に、もう一か国語を学ぶことが必須とされており、私のホストファミリーだったエリックは、ホームス

テイ中にスペイン語も教えてくれました。私がこのエリックや、ストックホルムでお世話になったジェイコブにどうやって英語を勉強しているのか尋ねると、英語のテレビを見たり、英語をたくさん聞いていると二人とも言っていて、「書く」ことが中心の日本との違いを感じました。実際私もこの一週間で自分のリスニング力のなさを痛感し、このレベルで英語を使って働ける訳がないと、自分の考えの甘さに気づきました。



フィーカしている様子

しかし、これから先、もっと英語を使って色々なこと表現できるようにして、いつかもう一度、ホストファミリーやジェイコブと話をしたいという新しい目標もつくることができました。もし本当にそんな日が来たら、たくさんの感謝の気持ちを伝えて、今回はなかなかできなかつた、何気ない会話を楽しみたいです。

スウェーデンで一週間過ごす中で、私達は本当にたくさんのおもてなしを受けました。私が一番忘れられないのは、ホストファミリーの事です。私達は二人で、六月にスウェーデンからの交換留学生として日本に来たエリックのお家へホームステイさせていただきました。エリックのお父さんは私達に日本のことをたくさん聞いてくれて、お母さんは私達が帰ってくるといつも優しく「今日はどうだった？楽しかった？」と聞いてくれました。また、二人は私達がスウェーデンを離れる時に泣いてくれて、お別れが本当に辛かったです。エリックはたまにちょっとふざけていて、言葉が完璧に通じなくても、面白くて優しい性格だということが分かりました。毎日車で色々なところへ連れていってくれて、本当にかっこ良かったです。たくさんスウェーデン語を教えてもらったこと、逆に箸の持ち方を教えてあげたこと、リビングで一緒に英語の原稿を読んだこと、三人のことを思い出すと、本当にスウェーデンへ帰りたくなります。たった五日間のホームステイでしたが、私にとってはかけがえのない宝物になりました。また、「おもてなし」は日本だけの文化ではないということにも気づきました。



ホストファミリーの高校生たちと

これから先、本人に直接はできないかもしれないけれど、たくさんもらった「おもてなし」を私も日本へ来た外国人の方へ返していきたいです。そして私がスウェーデンで感じたように、日本のことを好きになって、また来たい、と思ってもらいたいです。そのためには、私がもっと日本のことを知って誇れるようになることが大切だと考

えています。スウェーデンにいる間、きれいな景色や美味しい食事、自由な学校など、日本より良いなと感じるものはとてもたくさんありましたが、日本のほうが優れていると思うものは正直見つけられませんでした。自分が日本の生活を当たり前と思っているからというのがありますが、日本の良さを他の国の人に伝えられないのは、何だか情けないと感じました。また、周りを見ても「日本なんて。」と言っている人をたまに見かけます。二年後には東京オリンピックも行われるので、私は自分の国に自信をもって、海外の方に日本の良さを伝えられるようになりたいと思います。

最後に、この交換留学を通じて、すてきな人に出会い、自分の視野も広げることができました。スウェーデンで出会った人、一緒に行ってくれた仲間と洞口先生、岡崎市役所の五十嵐さんをはじめ、たくさんの人に感謝したいと思います。これから、この経験を自分の将来へ活かしていきます。